

平成29年度 JICA 草の根技術協力事業

埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援  
(フィリピン)

第2回埼玉研修 実施報告書

平成29年10月9日(月)～平成29年10月18日(水)



埼玉県教育委員会



# 「平成29年度 第2回 埼玉研修」報告書 目次

I	研修概要	1
II	研修日ごとの活動	
	・ 10月9日(月) 研修員来日・成田空港出迎え	4
	・ 10月10日(火) 開講式・オリエンテーション・講義 I・II・歓迎コンサート・歓迎会	5
	開講式	6
	講義 I「埼玉県の教育概要(初等中等教育)」	9
	講義 II「総合教育センターの役割」	9
	歓迎コンサート	10
	歓迎会	12
	・ 10月11日(水) ワークショップ I・II「知識構成型ジグソー法の理解」	14
	ワークショップ I「体験を通じてKCJを知る」	15
	ワークショップ II「KCJの進め方を自分のものにする」	16
	・ 10月12日(木) 学校訪問(県立伊奈学園中学校・県立不動岡高等学校)	17
	県立伊奈学園中学校	18
	県立不動岡高等学校	19
	・ 10月13日(金) ワークショップ III・IV「KCJの授業デザイン」	20
	ワークショップ III「KCJの背景にある原理と授業デザイン原則」	21
	ワークショップ IV「KCJ授業のデザイン」	21
	・ 10月14日(土) センター一般公開	22
	センター一般公開	23
	・ 10月16日(月) 会場校研修(県立桶川高等学校)・ワークショップ V	24
	県立桶川高等学校	25
	ワークショップ V「KCJ教材作成・日本の授業者との交流」	26
	・ 10月17日(火) 学校訪問(鴻巣市立屈巢小学校)・評価会・閉講式	27
	鴻巣市立屈巢小学校	28
	評価会	32
	閉講式	34
	・ 10月18日(水) 研修員離日・成田空港見送り	37
III	成果と課題	38



# I 研修概要

## 1 主催

埼玉県教育委員会

[事業全体管理・研修企画運営] 埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

[研修運営・教員研修] 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

埼玉県立総合教育センター

※JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠：平成28年度～30年度）の平成29年度事業として実施

## 2 研修支援・協力

東京大学高大接続研究開発センター高大連携推進部門内「COREFユニット」

## 3 研修名称

「埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援」事業  
第2回埼玉研修

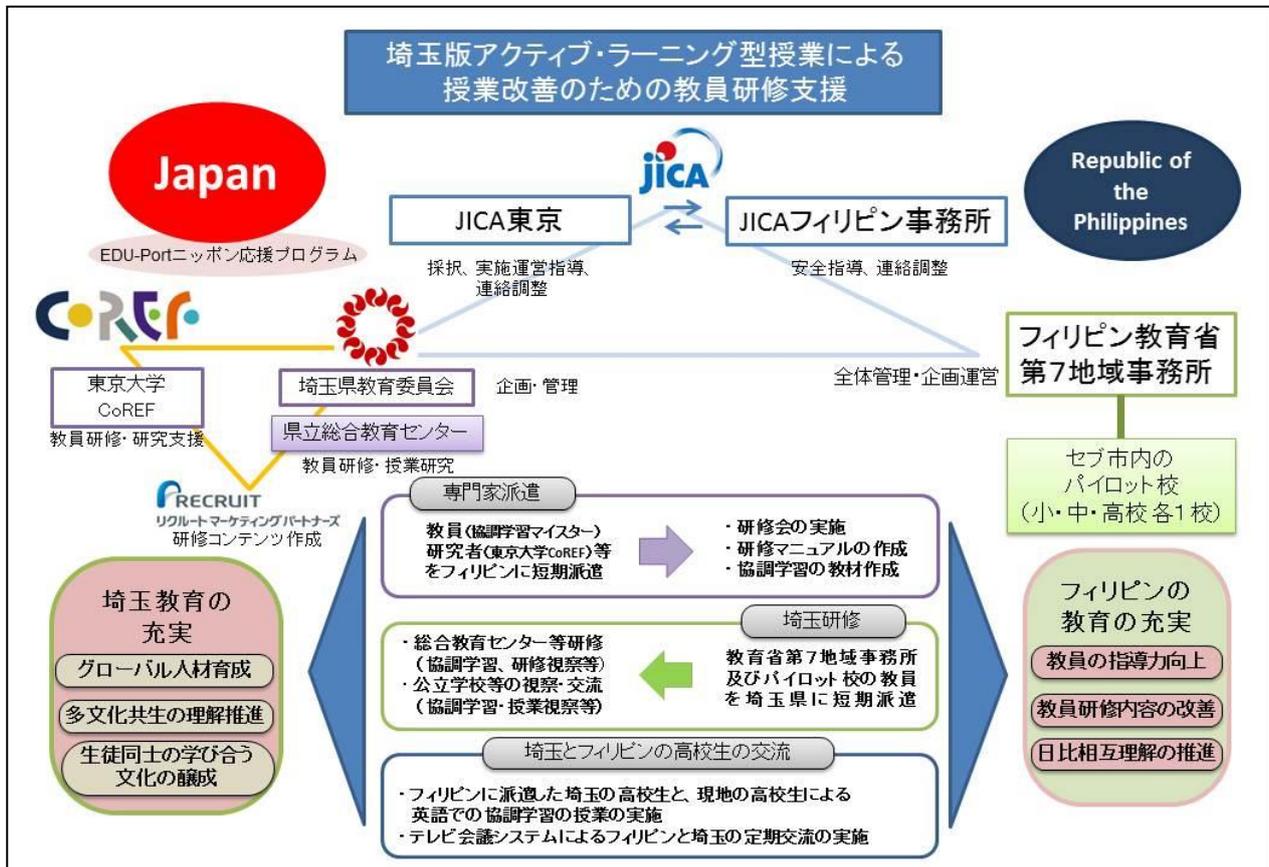
## 4 研修目的

フィリピン（セブ州・第7地域事務所）の教育行政関係者及び初等・中等教育学校の教員（パイロット校30名）に対して、子供たちの主体的・協働的な学びを実現する指導方法の習得をめざし、協調学習の理論習得と「知識構成型ジグソー法」による授業の実践力を育成し、フィリピンの初等・中等教育の強化を図ることを目的とする。

## 5 研修期間

平成29年10月9日（月）～平成29年10月18日（水）

## 6 実施体制等



## 7 研修参加者

	氏名	性	所属・職名
1	DAGATAN, BIANITO ANONAT	男	教育省セブ市教育委員会 教育長
2	RESTAURO, CESAR JR. ANGCOS	男	教育省第7地域事務所 指導主事
3	SUSVILLA, ESTELA BARRETE	女	教育省マンドラウエ市教育委員会 副教育長
4	RUELAN, JAIME PANARES	男	教育省マンドラウエ市教育委員会 指導主事
5	MAGALE, FE ERASMO	女	マンドラウエ市 総合国立高校 校長
6	PIELAGO, EVELYN RIAS	女	セブ市 国立科学高校 校長
7	CARATAO, GALELEO MANZANARES	男	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
8	JACALAN, SHARLYN TRAZONA	女	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
9	RAMIREZ, WINSTON NAVAJA	男	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
10	SACLOLO, BONNIE JAMES ABUCEJO	男	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
11	VILLEGAS, EVELYN BENTING	女	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
12	AMANCIA, LUCILA FIDERE	女	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
13	DELGADO, JUNE VENELEE ALEGARBES	女	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭
14	ABAY, HAZEL MAE CREDO	女	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭
15	NAMIT, RONETH EDULLANTES	女	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭

※COMISO, ROSITA VILLANUEVA 氏 (教育省教育課程開発局教育課程課教育課程統括官) は来日中止。



## 8 主な研修場所

県立総合教育センター、県立不動岡高等学校、県立桶川高等学校、県立伊奈学園中学校  
鴻巣市立屈巢小学校

## 9 研修計画

全体計画（A 3、1枚、日本語・英語版）、詳細計画（A 4、各日ごと、日本語）を作成した。

JICA草の根技術協力事業(フィリピン) 第2回埼玉研修 【H29.10.5現在】									
月日	時間	研修内容	場所	局関係	センター	CoREF	JICA	通訳	
第1日 10/9 (月)	14:40	PR432 マニラ空港発 20:10成田着	マニラ空港	—	—	—	—	—	—
	14:45	PR436 セブ空港発 20:30成田着	セブ空港	—	—	—	—	—	—
	19:30	出迎えのため集合、チェックイン	成田空港	木村・遠藤	山崎・瓊水	—	—	—	—
	21:30	出迎え後ルートイングランティア羽生へ		遠藤	山崎・瓊水	—	—	—	—
	23:00	チェックイン、ブリーフィング		ルートイングランティア羽生	遠藤(泊)	山崎・瓊水	—	—	—
第2日 10/10 (火)	9:20	ホテル発	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—	—
	10:00-12:00	開講式、オリエンテーション、 所内見学【体研AB】	総合教育センター	古川部長 上原(開講式) 遠藤	井上	—	長谷川次長 鈴木、高橋、 廣瀬	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 有田 勇一 郎(Yuichiro Arita)	
	14:00-14:45	講義:埼玉県の教育概要		—	小島	—	鈴木		
	15:00-15:45	講義:総合教育センターの役割		—	山崎	—	鈴木		
	16:00-17:00	歓迎コンサート【アリーナ】 進修館高校 空手部・合唱部		遠藤	大木	—	鈴木		
	17:30-19:00	所内懇親会【談話室兼食堂】		遠藤	清水	—	鈴木		
19:30	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—	—	
第3日 10/11 (水)	8:30	ホテル発	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—	—
	9:00-12:00	WS I【KCJ①】 【233.234】	総合教育センター	遠藤、新	山崎	白水 齊藤	鈴木	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 有田 勇一 郎(Yuichiro Arita)	
	14:00-17:00	WS II【KCJ②】 【233.234】		遠藤、新	山崎 /増田		鈴木、高橋		
17:30	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—		—
第4日 10/12 (木)	8:30	ホテル発	ルートイングランティア羽生	—	野崎	—	—	—	—
	9:30-12:00	会場校研修(昼食持参)	県立伊奈学園中学校	—	小島 山崎 野崎	齊藤 秋山	高橋	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 有田 勇一 郎(Yuichiro Arita)	
	14:00-16:30	会場校研修	不動岡高校	—	山崎 野崎	—	—		
17:00	ホテル着	ルートイングランティア羽生	—	野崎	—	—	—		
第5日 10/13 (金)	8:30	ホテル発	ルートイングランティア羽生	—	石井	—	—	—	—
	9:00-12:00	WS III【KCJ③】 【233.234】	総合教育センター	野崎 /篠田 増田	野崎 /篠田	白水 齊藤 堀	鈴木	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 佐藤 祐大 (Yudai Sato)	
	14:00-17:00	WS IV【KCJ④】 【233.234】		小河(浦和) 若林(鷹の台) 鈴木 遠藤			野崎 /篠田		鈴木
17:30	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—		—
第6日 10/14 (土)	8:00	ホテル発	ルートイングランティア羽生	—	石井	—	—	—	—
	8:30	一般公開全職員打合せ参加	総合教育センター	遠藤	野崎	—	鈴木、高 橋、廣瀬	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 佐藤 祐大 (Yudai Sato)	
	10:00-16:00	総合教育センター一般公開		遠藤	野崎	—	鈴木、高 橋、廣瀬		
	17:30-19:30	一般公開懇親会		味鮮	遠藤	清水・野崎	鈴木、高 橋、廣瀬		
20:00	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—			
第7日 10/15 (日)	休 日								
第8日 10/16 (月)	8:30	ホテル発	ルートイングランティア羽生	—	野崎	—	—	—	—
	9:30-13:15	会場校研修(昼食は学食)	桶川高校	—	小島・鎌田・ 山崎・野崎	白水 齊藤 秋山 堀	—	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 有田 勇一 郎(Yuichiro Arita)	
	14:30-17:00	WS V【KCJ⑤】 【131】	総合教育センター	野澤(浦和) 山崎(和国) 森名 遠藤	野崎 /山田 坂庭		鈴木		
17:30	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤	—	—	—	—		—
第9日 10/17 (火)	8:15	ホテル発	ルートイングランティア羽生	—	山崎	—	—	—	—
	9:00-12:00	会場校研修	鴻巣市立屈巢小学校	鮫島	水野 清水 山崎	—	—	沢田 啓子 (Keiko Sawada) 有田 勇一 郎(Yuichiro Arita)	
		昼食(さきたま古墳公園orセンター着後)				—	—		
	14:00-17:00	評価会・閉講式 【131】	総合教育センター	上原(閉講式) 遠藤	増田	—	木野本所長 鈴木、高橋		
17:30	ホテル着	ルートイングランティア羽生	遠藤(泊)	山崎(泊)	—	—	—		
第10日 10/18 (水)	4:30	資料整理・チェックアウト	ルートイングランティア羽生	遠藤	山崎	—	—	—	—
	7:30	成田空港出発ロビー到着 チェックイン PR435 9:35成田空港発(セブ)	成田空港	遠藤	山崎	—	—	—	—

宿泊先: ルートイングランティア羽生 〒348-0054 埼玉県羽生市 西3丁目19-3 Tel: 048-560-3555 Fax: 048-560-3553

## Ⅱ 研修日ごとの活動

10月9日（月） 研修員来日・成田空港出迎え

時 間		内 容	場 所 等
19:30		成田空港 第2ターミナル 到着B出口集合	高指課(木村・遠藤) 総セン(山崎・清水)
20:30		研修員 15名 到着 フィリピン航空436便	第2ターミナル
22:00		成田空港 出発(借り上げバス)	
23:40		ルートイングランディア羽生 到着	ホテル
23:45-23:55	10	ブリーフィング	
24:00		解散	ホテルロビー

当初の来日予定は16名であったが、ビザ取得の関係で1名減の15名での来日となった。  
遅い時刻での来日となったが、研修員全員、元気に成田空港に到着した。



【遠藤指導主事の挨拶】



【15名の研修員と出迎えの職員】

10月10日（火）開講式/オリテン/講義Ⅰ・Ⅱ/歓迎コンサート/歓迎会

時 間		内 容	場 所 等
9:20		ホテル出発（借上バス）	ホテルロビー集合
9:40		センター到着 記念撮影（企画調整：野崎指導主事）	高指課（遠藤）
10:00   11:00	60	開講式 司会：井上指導主事 記録：増田指導主事 あいさつ 【JICA】長谷川 敏久 次長 【教育局】古川 治夫 県立学校部長 【総 七】小島 克也 所長 【研修生代表】Dangan,Bianit Anonat 自己紹介	体育研修室AB
11:00   12:00	60	オリエンテーション 司会・記録：井上指導主事 訪問校紹介（指導課：遠藤指導主事） 所内見学 （企画調整：野崎指導主事／情報教育：大沼指導主事） 記念撮影（企画調整：野崎指導主事）	体育研修室AB
		昼食休憩（バルクへ買い物）	体育研修室AB
14:00   14:45	45	講義：「埼玉県の教育概要（初等中等教育）」 小島 克也 所長 司会・記録：井上指導主事	体育研修室AB
		休憩	
15:00   15:45	45	講義：総合教育センターの役割 山崎 正義 企画調整担当GL 司会・記録：井上指導主事	体育研修室AB
		休憩	
16:00   17:00	60	歓迎コンサート（進修館高校 空手部・合唱部） 挨拶：小島所長 ①空手部 演武 ②合唱部 コンサート 謝辞：鎌田教育主幹 司会：教育課程・須澤指導主事	アリーナ
		休憩	
17:30   19:00	60	歓迎懇親会 企画調整：清水主任指導主事	談話室兼食堂
19:10		センター出発（借上バス）	遠藤指導主事
19:30		ホテル到着	ホテル



【全職員でお出迎え】

■ 開講式 10:00～11:00 担当：井上 謙 指導主事（企画調整担当）

1 出席者 総合教育センター

小島 克也 所長 ・ 水野 義夫 総合企画長  
 亀山 典幸 副所長 ・ 島崎 祐子 副所長  
 小久保 達夫 教育主幹 ・ 鎌田 勝之 教育主幹 ・ 大竹 秀明 教育主幹  
 各担当GL

JICA東京

長谷川 敏久 次長  
 高橋 依子 市民参加協力第一課職員 ・ 廣瀬 勝弘 国際協力推進員  
 鈴木 啓修 学校教育アドバイザー

県教育委員会

古川 治夫 県立学校部長  
 上原 一孝 高校教育指導課教育指導幹 ・ 遠藤 宏之 指導主事

2 場 所 総合教育センター 体育研修室AB

3 内 容 (1) 開式  
 (2) 国歌斉唱（フィリピン国歌／日本国歌）

(3) 挨拶

- ① JICA東京国際センター次長
- ② 教育局県立学校部長
- ③ 県立総合教育センター所長
- ④ 研修員代表
- ⑤ 自己紹介

長谷川 敏久 氏  
 古川 治夫  
 小島 克也  
 Dangan, Bianit Anonat 氏

(4) 閉式

#### 4 挨拶

##### ◆ J I C A 東京 長谷川 次長〔要旨〕

みなさん、おはようございます。

皆様ようこそ埼玉へおいでくださいました。

我々 J I C A としまして、フィリピンから研修生をお迎えして、埼玉県とともに草の根技術協力事業を実施することができて非常に嬉しく思います。

みなさん、53年前のこの日は何の日かご存知ですか。

53年前の今日は、東京オリンピックの開会式の日でした。3年後のオリンピックではなく、以前に行われたオリンピックの開会式の日です。

私は、そのオリンピックの1か月前に生まれたので、よく覚えていないのですが、今日のようにとても天気の良い日だったようです。この良い天気は、みなさんを歓迎しているように感じます。

大変短い期間ですが、研修の目的を思い出して、きちんと目標を達成していただきたいと思います。

研修はもちろんですが、日本での滞在中、楽しく過ごしてもらいたい。そして、フィリピンに帰って、成果を残してもらいたいと思います。

ただ、週末には大変寒くなるという予報が出ています。健康に気を付けて、元気にフィリピンに戻ってください。



【J I C A 長谷川次長】

##### ◆ 県立学校部 古川 部長〔要旨〕

皆さん、おはようございます。県立学校部長の古川治夫です。埼玉県に、ようこそおいでくださいました。皆さんとお会いすることができ、大変うれしく思っております。今年5月から本格的にスタートしたこの事業も、私も参加しました8月のセブ州への訪問をへて、2回目の埼玉研修となります。

さて、フィリピンでは現在 K to 12 という教育改革が進行しており、来年初めて12年生の卒業生が出ると聞いております。日本でも国の基準である学習指導要領が改訂されます。高等学校は来年3月に改訂予定で、2023年度から実施される予定です。

J I C A 草の根技術協力事業は、埼玉県とフィリピンの交流によりお互いの教育の質を高めていく、貴重な機会です。埼玉県教育委員会は、J I C A 東京の皆さまに御協力いただきながら、一生懸命、この事業を進めてまいりたいと思います。

小島所長はじめ、総合教育センターの指導主事の皆様には、研修会場の提供をはじめ、様々な面でお世話になります。8月にフィリピンを訪れた際に、日本の高校生がフィリピンの高校生と交流する姿を拝見しました。今後このような生徒同士の交流がますます盛んになり、両国の教育がさらに深まることを期待しています。

おわりに、この研修が、皆さんにとっても私たちにとっても充実したものとなるようお願い、挨拶いたします。



【県立学校部古川部長】

#### ◆ 総合教育センター 小島 所長〔要旨〕

おはようございます。ようこそお越しくださいました。昨夜はよく眠れましたでしょうか。皆様のおいでを待ち遠しく思っていました。

総合教育センターは埼玉の行田市にあります。行田市は埼玉県北部の歴史と自然が豊かな町です。今から 1700 年前頃につくられた古墳や、500 年前ころにつくられた城、忍城で有名な街です。

この総合教育センターは、埼玉県の幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の先生が研修を行う県立の研修センターです。1 年間に、のべ人数で、およそ 4 万人の先生がここで研修を行います。職員は、ほとんどが指導主事でおよそ百人います。

総合教育センターは、教員研修の他に授業法の開発や教育相談も行っています。皆さんの十日間の滞在期間には、この教育センターでの研修だけでなく、小学校や高等学校の見学をする他、埼玉県教育委員会を表敬訪問していただく機会もございます。短い中にたくさんの中身があります。体調には十分ご注意ください。

皆様に多くのことを学んでいただき、私達もこの研修から多くのことを学びたいと思います。この研修がお互いに充実したものになることを期待して、挨拶いたします。



【総合教育センター小島所長】

#### ◆ 教育省セブ市教育委員会教育長 ビアニト氏〔要旨〕

今回、埼玉に来ることができてとてもうれしく思っています。フィリピンの教育を改善するために、いろいろなことを学びたいと思います。

特に今回は教育を効果的に進める方法について学びたいと思います。 【研修員代表 ビアニト氏】

今回、こちらで学ばせて頂くにあたり、JICAの皆様、埼玉県教育委員会の皆様、埼玉県立総合教育センターの皆様に変感謝いたします。

今回、我が国の K to 12 という教育改革にあたり、初めての卒業生が出ることとなりますが、こちらで学ぶことで、更に教育改革を進めることができると期待しています。

ここで、記念品の贈呈をさせていただきたい。私どもの感謝の気持ちとして、記念品を受け取っていただきたい。どうぞお受け取りください。



- **オリエンテーション** 11:00～11:40 担当:遠藤 宏之 指導主事(高校教育指導課)  
日程説明・訪問校の紹介

今後の研修の概要及び訪問する学校の紹介を行った。

- **所内見学** 11:40～12:00 担当:井上 謙 指導主事(企画調整担当)

- 1 **説明者** 総合教育センター  
井上指導主事 中川指導主事(指導相談担当) 大沼指導主事(情報教育推進担当)
- 2 **場所** 大研修室 JICAサテライト 談話室兼食堂 相談棟 121研修室(3Dシアター)
- 3 **様子等** 研修生たちは3次元映像、JICAの資料等の見学に積極的に参加していた。



【3次元シアター】



【JICA サテライト】



【教育資料室】

- **講義 I** 14:00～14:45 担当:井上 謙 指導主事(企画調整担当)

- 1 **講師** 総合教育センター 小島所長
- 2 **場所** 体育研修室A B
- 3 **内容** 埼玉県教育行政(初等中等教育)
  - ・埼玉県の概要、県教育委員会のしくみ
  - ・埼玉県の統計資料
  - ・具体的な取組(学力向上・道徳教育・体力向上・グローバル人材の育成)
- 4 **質疑**
  - ・教員の職位・昇進・分掌等について(主幹教諭・指導教諭等)
  - ・学びの体系(学習指導要領・教育課程・教科書等)について
  - ・日本、フィリピン両国の道徳教育の内容について
  - ・児童生徒の学力格差への対応について



【小島所長の講義で研修の幕開け】

- **講義 II** 15:00～15:45 担当:井上 謙 指導主事(企画調整担当)

- 1 **講師** 総合教育センター 山崎企画調整担当 G L
- 2 **場所** 体育研修室A B
- 3 **内容** 総合教育センターの役割と特色
  - ・センターの業務について
  - ・センターが所管する教員研修について
  - ・研究・開発、相談事業について
  - ・多様な学びについて



【山崎 G L によるセンターの説明】

■ 歓迎コンサート 15:45～17:00 担当：大木 まみこ 指導主事（教育課程担当）

〔運営〕 山田指導主事、須澤指導主事、新井指導主事、小林指導主事、清水指導主事、  
白井指導主事、石井指導主事、増田指導主事、篠田指導主事（教育課程担当）、  
山崎主任指導主事、井上指導主事、増田指導主事、清水主任指導主事、野崎指導主事、  
中川指導主事（企画調整担当）

〔協力〕 進修館高等学校 空手部 顧問 小暮 宏 教諭（部員数 7名）

進修館高等学校 合唱部 顧問 森 綾子 教諭（部員数 17名）

\*当日のリハーサルは、14時40分会場入り（各部活20分ずつ）

開演 16:00

司会：須澤指導主事

1 開会行事 挨拶 小島所長

「本日は埼玉県の高校生たちの「合唱」及び「空手」をお楽しみください。そして、音楽と空手で「日本の文化」「日本の心」を感じていただければ幸いです。」

2 コンサート 16:05～16:55

(1) 進修館高等学校 空手部（進行 生徒）

- |        |        |          |                                     |
|--------|--------|----------|-------------------------------------|
| 1 固定基本 | 2 基本組手 | 3 対人組手練習 | 4 形 <small>えんぴ せいばい</small> （燕飛&成敗） |
|--------|--------|----------|-------------------------------------|



【真剣なまなざし、キレのある空手の演武を見せてくれました】

(2) 進修館高等学校 合唱部（進行 生徒） 9曲を披露

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1 フィリピン国歌      | 2 さくら（日本古謡）             |
| 3 ふるさと         | 4 夢はひそかに                |
| 5 サヨナラの意味      | 6 secret base ～君がくれたもの～ |
| 7 恋（ダンスあり）     | 8 群青                    |
| 9 上を向いて歩こう（英語） | ギター伴奏                   |



【フィリピン国歌からスタート】



【「恋ダンス」で盛り上げた合唱部】



【日本語で国歌の意味も紹介】

鎌田教育主幹より進修館高校の皆さんへ、今後さらに大切になる国際交流について話すとともに、本日の協力に対する感謝の気持ちを伝えた。

その後、フィリピン研修員代表の方からの感想をいただいた。また、フィリピンの皆さんから、進修館高校の空手部と合唱部へプレゼントを手渡した。



【進修館高校の方へプレゼント】

#### ◆研修員の振り返り・感想

「素晴らしい歓迎コンサートを開いていただき大変うれしい。空手も合唱も大変素晴らしかった。本日は、ありがとうございました。」



【感想を言うビアニト氏】



【進修館高校の皆さんと、和やかな雰囲気の中で】

■ 歓迎会 17:30～19:00

担当：清水 励 主任指導主事（企画調整担当）

- 1 出席者 小島克也 所長、水野義夫 総合企画長、亀山典幸 副所長、島崎祐子 副所長、鎌田勝之 教育主幹、大竹秀明 教育主幹 他センター職員多数（約40名）
- 2 場所 談話室兼食堂
- 3 次第
  - (1) 所長挨拶（小島所長）
  - (2) 研修員挨拶
  - (3) 乾杯（水野総合企画長）
  - (4) 各担当の紹介
  - (5) 研修員の自己紹介
  - (6) 野崎指導主事による日本伝統文化の紹介
  - (7) 記念写真撮影

◆総合教育センター 小島所長 【要旨】



【挨拶をする小島所長】

皆さん、こんばんは。本日の研修、お疲れ様でした。挨拶をさせていただきますが、果たして今日だけで私は何回の挨拶をさせていただいたか…。さて、日本は今、秋です。1年の中で、最も過ごしやすい季節です。日本には、秋を表す言葉に「実りの秋」というものがあります。「実り」とは、作物などが豊かに実るという意味だけでなく、秋の過ごしやすい季節の中、勉学やスポーツなどに集中して取り組み、その成果が豊かに「実る」という意味があります。

今回の研修が、皆様と我々の指導者としての資質を高め、子供たちの豊かな成長として「実る」ことを願っております。今夜は、皆さんとそれぞれの国の様子などを語りながら、楽しいひとときを過ごしたいと思います。お食事というほどのものではありませんが、どうぞお召しあがりください。ありがとうございます。



【挨拶するピアニト氏】



【水野総合企画長 乾杯の一言】



【初めての”カンパニー”】



【各担当の紹介】



【研修員の自己紹介】



【和やかに会食】



【野崎指導主事の「歌舞伎」紹介】



【2時間半前から準備しました】



【見事な傾奇者でした】



### フィリピン共和国国歌

最愛の国 東洋の真珠 心に燃やし続ける熱情  
 選ばれし国 勇者達の眠る地  
 いかなる征服者にも屈せず  
 海 山 蒼天 詩の如き壮麗さを放ち  
 愛しき自由への歌を奏でん  
 汝の御旗は勝利への輝き 決して曇ることなき星と太陽  
 栄光と愛情の地 汝の腕の中に天国はあり  
 汝を脅かす者あらば この命 喜んで汝に捧げよう



# 10月11日(水) ワークショップI・II

時 間		内 容	場 所 等
8:20		ホテル出発(借上バス)	高指課(遠藤)
8:45		センター到着	高指課(遠藤)
9:00   12:00	180	<p>【ワークショップI】体験を通じてKCJを知る</p> <p>9:00- 9:20 ウォーミングアップ(自己紹介)</p> <p>9:20- 9:40 講義「目指す新しい学びのゴール」</p> <p>9:40-10:30 KCJ体験「葉はなぜ折れ線」</p> <p>10:30-10:50 《休憩》</p> <p>10:50-11:40 体験の共有・振り返りと質疑</p> <p>11:40-12:00 講義「KCJの流れと効果」</p>	<p>233研修室</p> <p>234研修室</p> <p>CoREF (白水、齊藤、堀)</p> <p>企画調整(山崎)</p> <p>高指課(遠藤・新)</p>
		昼食休憩	ベルクで購入
14:00   17:00	180	<p>【ワークショップII】KCJの進め方を自分のものにする</p> <p>14:00-14:30 模擬授業準備 (授業案・教材をみて進行方法を検討)</p> <p>理科チーム「雲」</p> <p>数学チーム「比例・反比例」</p> <p>14:30-15:20 模擬授業①「雲」</p> <p>15:20-15:40 《休憩》</p> <p>15:40-16:30 模擬授業②「比例反比例」</p> <p>16:30-17:00 振り返りと質疑</p>	<p>233研修室</p> <p>234研修室</p> <p>CoREFメンバー (白水、齊藤、堀)</p> <p>企画調整(山崎)</p> <p>教育課程(増田)</p> <p>高指課(遠藤・新)</p>
17:15		センター出発(借上バス)	高指課(遠藤)
17:35		ホテル到着	ホテル

■ワークショップ I 「体験を通じて KCJ を知る」

(1) 講義1 「目指す新しい学びのゴール」

東京大学C o R E F 白水教授が21世紀型スキル等の目指す資質能力に関する国内外の現状に基づき、知識構成型ジグソー法への流れを説明した。



【白水教授による講義】



【聴講する研修員】



求められる学びに関する  
スライド

(2) 知識構成型ジグソー法体験「葉はなぜ／折れ線」

理科、数学の2班に分かれて教材体験をした。



【互いに学び合いながら教材体験をする研修員】

(3) 体験の共有・振り返りと質疑



【教材について共有・振り返りをする研修員】

(4) 講義2 「KCJ の流れと効果」



【白水教授と齊藤特任助教による講義】



【講義に聴き入る研修員】

## ■ワークショップⅡ「KCJの進め方を自分のものにする」

### (1) 模擬授業準備



【齊藤特任助教による講義】



【教材を検討する研修員】



### (2) 模擬授業①「雲」



【教師役の研修員】



【生徒役（発表者）の研修員】

### (3) 模擬授業②「比例反比例」



【エキスパート活動】



【ジグソー活動】



【発表生徒を指名する研修員】

### (4) 振り返りと質疑

「この場面で「KCJ」を導入したのはどうしてか？」等の質問が出される。活発な振り返りとなった。



【全体で振り返り】



【質問する研修員】



【応答する白水教授】

10月12日（木） 県立伊奈学園中学校訪問・不動岡高校訪問

時 間		内 容	場 所 等
8:30		ホテル（ルートイングランティア羽生）出発（借上バス）	総セ（野崎）
9:30		県立伊奈学園中学校 到着	総セ（野崎）
9:40   10:00	20	開会行事 司会：山崎 記録：野崎 挨拶 会場校校長 学校概要説明 諸連絡	会場：応接会議室 CoREF（齋藤・秋山） JICA（高橋） 通訳（沢田・有田） 総セ （小島・山崎・野崎）
10:00   10:40	40	事前協議 授業者からの説明 指導内容 QA	会場：応接会議室
10:55   11:45	50	公開授業・1年生数学（齋藤教諭）	会場：選択教室
11:55   12:30	35	研究協議 参観シート・簡易振り返りシート （授業者参加不可）	会場：応接会議室
12:30   13:10	40	閉講式（ごく簡単に） 研修生お礼の言葉 昼食（各自持参）	会場：応接会議室
13:15   14:00	45	県立伊奈学園中学校 出発 県立不動岡高校 到着	車移動（山崎） バス（野崎）
14:05   16:30	120	県立不動岡高校 進行：神田教頭 記録：山崎、野崎 生徒との交流	総セ（山崎・野崎）
16:40		県立不動岡高校 出発	車移動（山崎） バス（野崎）
17:00		ホテル（ルートイングランティア羽生） 到着	総セ（野崎）

■ 県立伊奈学園中学校訪問 9:30~13:15 担当:野崎 亮太 指導主事(企画調整担当)

訪問者 研修員15名 通訳2名 東京大学 CoREF 2名 総合教育センター3名  
対応者 金子 隆 校長、甲山貴之 教頭、齋藤奈緒美 教諭、田島成和 教諭

1 開会行事(挨拶・学校概要説明)

司会:山崎

記録:野崎



【挨拶する金子校長】

県立伊奈学園中学校へようこそお越しくございました。  
本校では中高一貫教育を通じて、人格の陶冶と高い学力を養成することを目指しています。また、道徳の時間や校外授業などを通して、規律やマナーをわきまえた、主体的に行動できる心豊かな生徒を育てていきます。  
短い時間での授業見学になりますが、フィリピンの皆さんの参考になることがあれば幸いです。

・学校概要説明

研修生からは日本の学校の基本的な状況や情報について質問があった。訪問前に日本の学校教育の基本的な内容についての情報提供を行うとよいかもしれない。

・授業者からの説明

授業を行う齋藤教諭から、授業案をもとに授業の意図や流れについて説明があった。



【説明する齋藤教諭】

2 公開授業・1年生数学(齋藤教諭)



【授業見学の様子】



【熱心にメモを取る研修員】



【机間指導する齋藤教諭】

3 研究協議

活発な質疑応答のあと、東京大学 CoREF 齋藤萌木助教から今後の学びにつなげるコメントがあった。



【コメントする齋藤萌木特任助教】



【記念品贈呈】

4 閉講式

■ 県立不動岡高等学校訪問 14:05～16:40 担当：野崎亮太 指導主事（企画調整担当）

訪問者 研修員15名 通訳2名 総合教育センター3名

対応者 神田剛広 教頭、 遠藤久美子 教諭、 浅井一郎 教諭、 音楽部生徒ほか

## 1 授業見学

1年7組のコミュニケーション英語Ⅰ（遠藤久美子教諭）の授業を見学した。生徒は4人ずつのグループに分かれ、フィリピンからの研修生がそれぞれのグループに入って、様々な活動を行った。



【簡単な英会話からスタート】



【漢字の意味を英語で説明】



【授業をする遠藤教諭】

## 2 生徒との交流

音楽部の生徒が歌声を披露。It's a small world を研修生も一緒になって合唱した。



【歌声を披露する音楽部の生徒】



【研修生も一緒に】



【みんなで記念撮影】

ESSの生徒たちがゲームをいくつか考えて迎えてくれた。けん玉や伝言ゲーム、言葉当てクイズなどを楽しんだ。



【けん玉を伝授】



【盛り上がった伝言ゲーム】



【生徒達と記念撮影】

10月13日（金） ワークショップⅢ・Ⅳ

時 間		内 容	場 所 等
8:25		ホテル出発（借上バス）	総セ（石井）
8:45		センター到着	
9:00   12:00	180	<p>【ワークショップⅢ】 KCJの背景にある原理と授業デザイン原則</p> <p>9:00-10:00 学習科学講義 10:00-10:30 《休憩》 10:30-12:00 講義・演習 「協調学習が起きやすい環境の条件とKCJ」 グループ協議→C.T. 3種（KCJが有効な理由 ／条件を損なうとき／応用問題）</p>	<p>233研修室 234研修室</p> <p>CoREF（白水、齊藤、堀） JICA（鈴木） 通訳（沢田・佐藤） 高指課（遠藤） 総セ（増田貴・篠田・野崎）</p>
		昼食休憩	ベルクで購入
14:00   17:00	180	<p>【ワークショップⅣ】 KCJ 授業のデザイン</p> <p>14:00-14:15 デザインシート説明 14:15-15:00 8月の授業デザイン資料検討 15:00-15:20 《休憩》 15:20-16:40 12月の授業デザインスタート 16:40-17:00 クロストーク</p>	<p>233研修室 234研修室</p> <p>CoREF（白水、齊藤、堀） JICA（鈴木） 通訳（沢田・佐藤） 高指課（遠藤・鈴木） 総セ（篠田・野崎）</p>
17:15		センター出発（借上バス）	高指課（遠藤）
17:35		ホテル到着	高指課（遠藤）

### ■ワークショップⅢ KCJの背景にある原理と授業デザイン原則

指導者 白水 始・齊藤萌木・堀 公彦（東京大学高大接続研究開発センター）

観察者 鈴木啓修（JICA 東京国際センター市民参加協力第一課 学校教育アドバイザー）

通 訳 2名

その他 遠藤宏之（高校教育指導課 指導主事） 総合教育センター

白水教授より、知識構成型ジグソー法（KCJ法）の背景にある学習科学の原理と、ジグソー法によって引き起こしたい学習（建設的相互作用）について講義があり、研修生は実際にジグソー法を体験しながら学んだ。



【講義する白水教授】



【熱心に講義を受ける研修員】

### ■ワークショップⅣ KCJ授業のデザイン

指導者 白水 始・齊藤萌木・堀 公彦（東京大学高大接続研究開発センター）

小河園子（県立浦和高等学校 教諭 協調学習マイスター）

観察者 鈴木啓修（JICA 東京国際センター市民参加協力第一課 学校教育アドバイザー）

通 訳 2名

その他 遠藤宏之（高校教育指導課 指導主事） 総合教育センター

フィリピンの教材を題材に、授業デザインの検討を開始した。検討は学校、教科に分かれて行い、小河園子教諭（協調学習マイスター）を迎え、現場での実践者からの助言も受けながら学びを深めた。



【指導する小河教諭】



【教材を検討する研修員】

10月14日（土） 一般公開

時 間		内 容	場 所 等
8:00		ホテル出発（借上バス）	総セ（石井）
8:20		センター到着 → 管理棟2階へ	管理棟2階担当室
8:30		一般公開「はじめの会」 全職員集合	管理棟2階担当室
8:40		控室へ荷物の移動	研修生控室：231
8:50   9:50	60	活動内容及び分担等確認・会場見学	231→212→231 総セ（野崎） 通訳（沢田・佐藤）
10:00   11:00	60	〔ピアノ・セザール・エステラ〕 ※組み分けは仮	JICA（高橋・鈴木） 総セ（野崎）
11:00   12:00	60	〔ジェーム・フィー・イブリン〕 他の研修員→大研修室『0歳からの音楽物語』	高指課（遠藤） 総セ（野崎）
12:00   13:00	60	〔ガリレオ・シャーリン・ウィンストン〕 ※昼食は空き時間に各自でとる。	総セ（野崎）
13:00   14:00	60	〔ボニー・イブリン・ルシラ〕	総セ（野崎）
14:00   15:00	60	〔ジュネ・ハイゼル・ロネス〕	総セ（野崎）
15:30		片づけを一緒に行う。	121 総セ（野崎）
17:30		センター出発 味鮮へ移動（徒歩）	JICA（高橋・鈴木） 通訳（沢田・佐藤） 高指課（遠藤） 総セ（清水・野崎）
18:00   20:00	120	「一般公開慰労会兼懇親会」@味鮮 行田市富士見2-35-18 電話：048-556-1333	JICA（高橋・鈴木） 通訳（沢田・佐藤） 高指課（遠藤） 総セ（清水・野崎）
20:00		味鮮 出発	高指課（遠藤）
20:15		ホテル到着	高指課（遠藤）

■一般公開「はじめの会」への参加



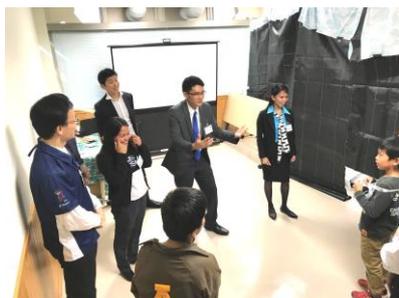
【「はじめの会」に参加する研修員】



【挨拶する小島所長】

■研修員による出展ブース運営

公益財団法人 ラボ国際交流センター東京言語研究所の出展プログラムに合わせて参加した。日常生活でつかう「おはよう」「素敵です」「おとうさん・おかあさん」等を英語、タガログ語、日本語で会話したり、英語の歌とダンス、フィリピンの歌をタガログ語で合唱したりして子供たちと楽しんだ。



【子供たちに、歌と動きを教える研修員】



Making Melodies in My Heart  
 ところにメロディーを  
 Making melodies in my heart (3x)  
 こころのなかでうたおう (3かい くりかえし)  
 To the King of Kings (Thumbs in)  
 おおさまのために (おやゆびなかに)  
 To the King of Kings (Elbows up)  
 (ひじあげて)  
 To the King of Kings (Knees Bend)  
 (ひざまげて)  
 To the King of Kings (Feet Apart)  
 (あしをはなす)  
 To the King of Kings (Heads Bend)  
 (くびまげて)  
 To the King of Kings (Tongues Out)  
 (べろだして)  
 To the King of Kings (Turn Around)  
 (くるっとまわる)

【英語の歌詞と動き】

■一般公開慰労会兼懇親会

センター近くの台湾料理「味鮮」で懇親会を開催。全研修員が参加し、所員との交流を深める場となった。



【懇親会での研修員挨拶】

UNITY SONG  
 たすけあいのうた  
 Magagawa natin ang lahat ng bagay  
 マガガワ ナティン アング ラハトゥ ング バガイ  
 lahat ng bagay dito sa mundo  
 ラハトゥ ング バガイ デイト サ ムンド  
 Isang bagay na hindi magagawa  
 イサング バガイ ナ ヒンディ マガガワ  
 Hindi magagawang nagiiisa  
 ヒンディ マガガワング ナギイサ  
 Malulutas natin ang maga problema  
 マルルタス ナティン アング マガ プロブレマ  
 Kung may pagkakaisa  
 クング マイ バグカカイサ  
 Ang suliranin dagling gagaan  
 アング スリランニン ダグリング ガガアン  
 At may bagong buhay  
 アトゥ マイ バゴング ブハイ

【タガログ語の歌詞】

10月16日（月） 会場校研修（県立桶川高校）・ワークショップV

時 間		内 容	場 所 等
8:30		ホテル出発（借上バス）	総セ（野崎）
9:30		桶川高校 到着	
9:40   10:00	20	開会行事 司会：山崎 記録：野崎 挨拶 総合教育センター 所長 小島克也 会場校校長 学校概要説明 諸連絡	会場：会議室 通訳（沢田・有田） CoREF（白水・齊藤・秋山・堀） 総セ（小島・鎌田・山崎・野崎）
10:00   10:35	35	事前協議 授業者からの説明（授業者参加不可） 指導内容 QA	会場：会議室
10:50   11:40	50	公開授業・2年生数学（白石教諭）	
11:50   12:30	40	研究協議 授業者より 参観シート・簡易振り返りシート	会場：会議室
12:40   13:15	35	昼食は、桶川高校の学食（日本8名、フィリピン15名）	会場：食堂
13:20		桶川高校 出発 バス乗車：フィリピン研修員、CoREF、総セ（小島、野崎）	バス（野崎）
14:30		センター 到着	
14:30   17:00	150	【ワークショップV】日本の授業者との交流 14:30-15:00 授業見学を受けての感想交流・質疑 15:00-15:50 12月の授業デザイン検討会 with マイスター 15:50-16:10 《休憩》 16:10-16:30 12月の日程決め 16:30-17:00 8月セブの例で、前後評価とPDCAサイクルについて	221 研修室 222 研修室 CoREF （白水・齊藤・秋山・堀） 高指課（兼名・遠藤） 総セン（山田・坂庭・野崎）
17:15		センター 出発	高指課（遠藤）
17:30		ホテル 到着	高指課（遠藤）

■ 県立桶川高等学校訪問 9:30~13:20 担当：野崎 亮太 指導主事（企画調整担当）

訪問者 研修員15名 通訳2名 東京大学 CoREF 4名 総合教育センター4名

対応者 青木一男 教頭、白石紳一 教諭

### 1 開会行事（挨拶・学校概要説明）

司会：山崎 記録：野崎

青木教頭から学校概要の説明があったあと、授業に先立ち、白石教諭から KCJ 法の理解と実践について解説があった。



【学校紹介をする青木教頭】



【質問する研修員】

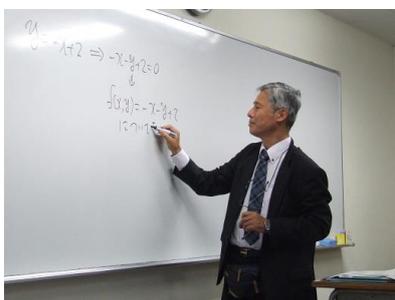


【解説する白石教諭】

### 2 公開授業・2年生数学（白石教諭）



【見学する研修員】



【課題を説明する白石教諭】



【ジグソー活動の様子】

生徒たちはすでにジグソー法の体験を積んでいるので、スムーズに活動に入っていた。建設的相互作用が生じている様子を間近に観察することができた。

### 5 研究協議ほか

授業後の協議では活動に積極的に参加しない生徒がいる場合の対応などについて質問があった。

協議後は桶川高校の学食で昼食をとり、日本の学校文化に触れる時間となった。



【記念品贈呈】



【桶川高校の学食でランチ】

## ■ ワークショップⅤ KCJ 法教材作成・日本の授業者との交流

指導者 白水 始（東京大学高大接続研究開発センター 教授）  
齊藤萌木（東京大学高大接続研究開発センター 特任助教）  
秋山佳子（東京大学高大接続研究開発センター 協力研究員）  
堀 公彦（東京大学高大接続研究開発センター 協力研究員）  
山崎 勝（県立和光国際高等学校教諭）  
野澤優太（県立浦和高等学校教諭）

通 訳 2名

その他 遠藤宏之・栗名裕美子（高校教育指導課 指導主事） 総合教育センター

これまでの研修内容を総合して、各研修員が12月にフィリピンで実施する授業の教材作りに取りかかった。和光国際高等学校から山崎教諭、浦和高等学校から野澤教諭を指導者に迎え、実践者の経験に基づく助言を得ながらの作業となった。



【齊藤特任助教の指導】



【協力して教材検討】



【助言する野澤教諭】



【情報研修室でファイル作成】



【齊藤特任助教によるまとめ】



【最後まで熱心に聴講】

埼玉研修も第2回となり、ワークショップの進行が安定感を増し、第1回に比較して研修員は教材作成をより深い段階まで進めることができた。

指導者として現職の教諭を2名招聘したほか、高校教育指導課及び総合教育センターの指導主事がそれぞれの学校、教科につくことができたので、効果的に教材作成を進めることができた。さらに態勢を手厚くして、研修生1名につき、助言者を1名あてることができると、研修成果は限りなく大きなものになるであろう。

作成した教材の保存にやや複雑な手順を要したため、今後はクラウドの使用など、よりファイル共有が容易で、研修後の、助言、修正等がスムーズな方法を検討することが望まれる。

10月17日(火) 鴻巣市立屈巢小学校訪問・評価会／閉講式

時 間		内 容	場 所 等
8:00		ホテル出発(借上バス)	総セ(山崎)
8:25		センター到着 ※同行者乗車後にすぐに出発8:30	総セ(水野・山崎・清水) 通訳(沢田・有田)
8:50		屈巢小学校 到着 ※義務教育指導課 鮫島指導主事は自家用車で来校	
9:10   9:25	15	開会行事 司会:清水 記録:山崎 挨拶 総合教育センター 水野 総合企画長 鴻巣市教育委員会 学校支援課 池澤 道弘課長 会場校校長 橋本 浩校長 日程説明(清水) 授業概要説明 屈巢小 森田 明義 教諭 諸連絡	義務指課(鮫島) 総セ(水野・山崎・清水) 通訳(沢田・有田)
9:40   10:25	45	第2校時 授業参観(4年生・外国語活動) ※学習指導案(略案・英語版)は屈巢小が作成。	
10:40   11:25	45	第3校時 授業参観(5年生・英語、4年生・理科) ※屈巢小学校職員が案内。(2グループ)	
11:35   11:55	20	閉会行事 司会:清水 記録:山崎 (1) 質疑応答 (2) 研修生代表より (3) 会場校校長より (4) 事務連絡等	
12:00		屈巢小学校 出発	
12:20   13:30	70	昼食 さきたま古墳公園 →お弁当を公園まで運搬(井上、中川)	さきたま古墳公園 総セン(井上、中川)
13:45		センター 到着	
14:00   16:30	150	【評価会】 司会:(鈴木学校教育アドバイザー) 研修報告/成果報告/質疑応答/諸連絡 【閉講式】 司会:増田 記録:野崎 挨拶/修了証授与/研修員挨拶	131 研修室 JICA(木野本所長、高橋、鈴木) 高指課(上原、遠藤)
16:45		センター出発(借上バス) (成田空港同行者もホテル前泊のため乗車)	高指課(遠藤) センター(山崎)
17:10		ホテル着	

■ 鴻巣市立屈巢小学校訪問 9:00～12:00 担当：清水 励主任指導主事（企画調整担当）  
〔同行者〕

水野総合企画長、山崎主任指導主事、清水主任指導主事（総合教育センター）  
鮫島指導主事（義務教育指導課）

1 開会行事（進行：清水主任指導主事） 9:00～9:30

- (1) 開会
- (2) 挨拶

・水野総合企画長 ・池澤課長（鴻巣市教育委員会学校支援課） ・橋本校長（屈巢小学校）

◆ 総合教育センター 水野総合企画長 【要旨】



県立総合教育センター総合企画長の水野義夫でございます。今回は、JICA草の根技術協力事業（フィリピン）の学校訪問に際しまして、鴻巣市教育委員会並びに鴻巣市立屈巢小学校橋本 浩校長先生をはじめ職員の皆様には、大変お世話になりますこと、まずもって御礼申し上げます。また、本日はお忙しい中、鴻巣市教育委員会学校支援課長池澤道弘様にも御出席いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。さて、15名のフィリピンの皆様は、10月10日より日本での研修を開始されました。これまでの研修の中で、日本及び埼玉県の学校教育概要等についての講義、アクティブ・ラーニング型の授業による授業改善に関する演習、そして高等学校2校、中学校1校への学校訪問に取り組みされてきました。本日は、研修員の方々にとって「はじめての日本の小学校の見学」となります。屈巢小学校は、文部科学省の委嘱を受け中学校区全体で先進的な英語教育に取り組まれているとお聞きしています。そんな屈巢小学校の授業を参観できる機会をいただき、研修実施担当として、とても嬉しく思っております。当研修は、本日が実質の研修最終日となります。こちらでの学校訪問が終わりましたら、センターに戻り、研修評価会及び閉講式を行い、明日フィリピンへと帰国いたします。研修員の方々、そしてお世話になります屈巢小学校の皆様にとって、有意義な半日となりますことを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

◆ 鴻巣市教育委員会学校支援課 池澤課長 【要旨】



鴻巣市教育委員会学校教育部学校支援課長の池澤でございます。どうぞよろしくお願いたします。このたびは、遠方より鴻巣市にお越しいただき、誠にありがとうございます。本市では「潤いと光ある鴻巣教育」を基本理念に掲げ、「縦の接続」と「横の連携」を重視したつながりのある教育施策の展開を図ることで、「生きる力をはぐくむ教育」を推進しております。具体的には、「確かな学力の向上と自立する力の育成」「豊かな心と健やかな体の育成」「質の高い学校教育の推進」「学校・家庭・地域の教育力の向上」「生涯学習とスポーツの振興」の5つの施策を総合的に推進していくことで、変化の激しい社会の情勢を踏まえ、市民に誇れる「子供たちにとって必要な学力や豊かな人間性・健やかな体が育まれ、落ち着いたのある教育活動が行われている学校」、そして、「子供たちの個性が磨かれ、それぞれに個々の光を輝かせている学校」をつくり、本市の未来を託すことのできる子供たちを育成していくことを目指した教育理念でございます。本日のご覧いただく授業参観には、4年生の外国語活動、5年生の英語が予定されております。次期学習指導要領が平成32年度に小学校で全面実施されるにあたり、外国語が教科として小学校に導入されますが、本市では次期学習指導要領への滑らかな移行と確実な実施に向けて、平成26年度から文部科学省の委託を受け、ここ屈巢小学校を含め、川里中学校区の小・中学校4校で外国語教育強化地域拠点事業に取り組んでおります。この事業は現在、埼玉県内では本市と宮代町のみが行っている取組であり、本市の学校教育における特色のひとつでございます。また、本市は平成5年度から中学校生徒海外派遣事業を継続して実施しております。この事業は中学生を対象として、現在はオーストラリアへ派遣しておりますが、グローバルな視点で心豊かにたくましく生きる子供たちの育成を目指した、本市の特色ある取組でございます。本日は、外国語教育強化地域拠点事業に関する授業を中心にご覧いただきます。短い時間ではございますが、本日はよろしくお願いたします。

### ◆鴻巣市立屈巢小学校 橋本校長 [要旨]



Good morning. Welcome to our school. Nice to meet you.  
I, m looking forward to seeing you.

みなさん、おはようございます。ようこそ屈巢小学校へお越しくださいました。屈巢小学校校長の橋本 浩と申します。本日は、県立総合教育センター総合企画長 水野 義夫様、同じく主任指導主事 山崎 正義様、同じく主任指導主事 清水 勲様、市町村支援部義務教育指導課 指導主事 鮫島 弘樹様、鴻巣市教育委員会学校教育課 池澤 道弘様、そして、フィリピン教育省セブ市教育委員会 教育長ビ

アノト様をはじめ、指導主事・校長先生方 小学校・高校の先生方を この屈巢小学校にお迎えできますこと大変うれしく思います。ありがとうございます。

まず、本校の概要について説明いたします。本校は、市内でも、もっとも歴史と伝統ある学校の一つです。140年以上の歴史があります。児童数212名、学級数が7、4年生のみ2クラスです。教職員数は、26名です。本校の学校教育目標は「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「明るく元気な子」です。また、ほかにキャッチフレーズ、があります。「花いっぱい」「夢いっぱい」「笑顔いっぱい」の「屈巢小」です。「フラワー」「ドリーム」「スマイル」です。この地域は花の栽培が盛んであり、本校がいつも花のある環境でいられるのは、保護者や地域の方々のおかげです。ところで、この地域、川里中学校区の4校、川里中学校、屈巢小学校、共和小学校、広田小学校では、埼玉県教育委員会、鴻巣市教育委員会の委嘱を受けて小中一貫教育に平成23年度から平成25年度までの3年間、取り組み、大きな成果をあげました。いわゆる中1ギャップの予防により、生徒が中学校で生き生きと活動しています。日本では「中1ギャップ」という言葉があります。中1になった時に新しい環境での学習や生活にうまく適応できないことです。不登校やいじめなど生徒の問題行動が増えます。背景には、小学校と中学校での教え方や授業の速度の違いによるつまづき、人間関係の変化、校則や生活指導の厳格化、放課後の部活動などがあるとされています。小中一貫教育の研究については県や市からの委嘱の期間は終了しましたが、現在も、3小学校5年生の合同林間学校、3小学校6年生合同の、年3回の川里中学校会場での学習会、3小学校6年生の川里中学校体育祭への参加、また、中学校からは、出身小学校での朝の挨拶運動、運動会での吹奏楽部の演奏、2年生や、3年生が小学校へ出向いての合唱の披露、など継続して取り組んでおります。なお、今年度は、文部科学省からの4年間の委託事業であります、英語の研究発表会が11月22日に川里中学校で行われます。3小学校の児童も川里中へ行き授業を公開します。本校からは4年生が参加します。この事業は、小学校での英語教育の早期化、教科化に向けての研究です。そのため、本来は、担任とALTの二人で授業を行うところを、もう1名、いわゆるコーディネーターとして、日本人の英語の加配教員が配置されています。このように、川里地域は、埼玉県はもとより国の最先端の研究をしております。本日は4年生の英語と5年生の英語の授業を中心に見ていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

### (3) 日程説明 清水主任指導主事

### (4) 授業概要説明 森田教諭

英語教育強化推進コーディネーター（以降 コーディネーター）の森田明義教諭（元川里中学校長）より、屈巢小学校の英語教育の取組及び本日の授業についての説明をいただいた。研修員向けに英語版の指導案を御準備いただいたので、研修員たちは見通しをもって授業参観することができた。



【コーディネーターの森田 明義教諭】  
（前 川里中学校校長）



【開講式の様子】

2 公開授業①（4年1組 外国語活動） 9：40～10：25

- ・単元等 Hi, friends! 2 Lesson5-2 Let's go to Italy  
「行きたい場所を伝えよう Let's say the places we want to go」



【指導するALTオラシオ先生(左)、担任の石橋教諭(中)森田教諭(右)】

【子供たちと会話する研修生】

担任の先生の温かくにこやかな指導を中心に、ALT及びコーディネーターがそれぞれの役割を的確に果たしながら進んでいくテンポのよい授業を、研修員たちは興味深く参観していた。子供たちは、英語活動を楽しみながら、そして真剣に学習に取り組んでおり、きめの細やかな指導の成果がいたる所に感じられた。研修員たちもこの恵まれた学習環境に感心していた。

授業中、子供たちが学習内容に関わる会話を英語で研修員たちに話しかけ、楽しそうに話す姿が見られた。子供たちにとっても、日常言語として英語を使う外国の方と話すよい機会となったと思われる。

3 公開授業②（5年1組 英語） 10：40～11：25

- ・単元等 Hi, friends! 1 Lesson5-3 What do you like?  
「友達の好きなものについて尋ねたり答えたりしよう  
Let's ask the things our friends like」



【参観する研修員たち】

【担任の岩崎先生(左)、ALTオラシオ先生(右)】

【楽しく活動する子供たち】

5年生の英語を参観した。研修員たちは、担任の軽快なクラスルームイングリッシュを中心としながら、リズムよく展開する授業に見入っていた。授業の様子から、子供たちが英語の授業をととても楽しみにしていることが伺えた。

4 公開授業③（4年2組 理科） 10：40～11：25

- ・単元等 「すずしくなると」 ヘチマの実の観察



【輪切りにしたヘチマの観察】

【フィリピンではヘチマを日常的に食べるとのこと】

【教室の掲示物にも関心を示していた研修生】

研修員たちは、4年生理科の授業も、授業担当者・担任（初任者）・初任者指導教員の3人体制で行っているのを見て驚いていた。通常、理科の時間は、授業担当者のみで実施しているが、この時間は初任者校内研修も兼ねて3人体制で授業を行っていたとのこと。研修員は、教室に掲示してあった様々な掲示物にも、日本の学校教育の細やかさを感じたと語っていた。

## 5 閉会行事（進行 清水主任指導主事） 11:30～12:00

### (1) 質疑応答（要旨）

Q：今日の授業は英語も理科も複数の教員で授業を行っていたが、他の授業も複数の教員で授業を行っているのか？

A：英語関係の授業については、文部科学省の委託を受けているため加配教員がおり、森田教諭がプラス1名で実施している。算数については、加配の教員が配置されているのでプラス1名で行っている。理科については、週に2日間だけ鴻巣市で採用した理科支援員が、市内の学校と兼任で勤務している。



【積極的に質問する研修生】

Q：鴻巣市教育委員会に聞きたい。どのような理由で英語を強化することになったのか？

A：文部科学省での事業に鴻巣市として手を挙げ、川里中学校ですでに取り組んでいた小中連携の事業に合わせて英語教育の研究を進めることとなった。

A：2年後から新しい学習指導要領が実施され、日本中の小学校が取り組むこととなる。それに先駆け、3、4年生の外国語活動、5、6年生の英語の週時数を増やしており、中学校の英語の授業時数とほぼ同じ時間数を確保して取り組んでいる。

Q：学校の始業時間と終業時間は？

A：8:05より16:35。これは職員の勤務時間。

Q：フィリピンでは1～3年生は8科目あり、すべて担任が一人で教えている。日本ではどのように行っているのか？

A：日本も基本的には担任一人で行っている。ただし、市より配置される支援員「いきいき先生」を1、2年生の支援に充てるなどしている。

Q：支援員の給与はどれくらいか？

A：時間給なので一概に分からないが、1日5.5時間勤務、年間160日までという中で、月の給与は12万円前後が多いかと思われる。

Q：それはとても高い。フィリピンでは通常採用の教員でも月4万円くらいの給料だ。あと、今日朝来た時に思ったのだが、フィリピンの小学校では毎日国旗を掲揚しているが、日本の学校では国旗をどのように扱っているのか？

A：毎日掲揚しているが、今日は雨なので掲揚していない。

Q：フィリピンの小学校では児童が作業の一環として清掃を行っているが、日本では？

A：日本も清掃を行っている。15分間、昼休みの時間に行っている。

Q：授業と授業の間の時間はどれくらいあるか？

A：休み時間は10分間ある。フィリピンでは？

Q：フィリピンでは休み時間はない。（前時の終わりの時刻が次時の開始時刻）

日本の小学校では放課後の課外活動は行っているか？

A：日本の小学校では、部活動などの課外活動は行っていない。地域の主催するクラブなどに所属している児童はいる。中学校では放課後に部活動を行っている。小学校では教育課程内にクラブがあり様々な活動を行っている。

Q：教員の評価を年1回または学期ごとに行っていると思うが、どのように行っているか？

A：教員の評価は最終的に校長が行い、毎年2月1日を最終評価日として行っている。校長の評価は市教委の教育長が行う。年3回の面接を行っている。

### (2) 研修員代表より

研修員代表ピアニト氏より橋本校長、池澤課長、森田先生へ、感謝の気持ちを込めてお土産を渡した。

### (3) 橋本校長より

本日はありがとうございました。本校の授業をご覧いただきましたが、いかがでしたでしょうか？国際化、グローバル化が進む中ですが、子供たちが実際に外国の方と接する機会は多くありません。今回の機会は子供たちにとって、そして私たち教職員にとっても貴重な体験となりました。子供たちの多くは「英語を使えるようになりたい」と思っています。その理由として、「英語の授業が楽しいから」ということがあります。本校職員の全員が英語が得意というわけではありませんが、子供たちに英語が好きになってほしいという思いから、コーディネーターの森田先生と担任が相談してより良い授業を行っていかよう取り組んでいます。子供たちも英語の授業を楽しみにしています。屈巢小学校で英語の授業を受けたこと子供たちが世界で活躍してくれることを期待しています。本日はありがとうございました。



【挨拶する橋本校長】



【研修員より学校、鴻巣市教委へお土産を贈呈】



### ■ さきたま古墳公園 12:20~13:40



【唐揚げ弁当】



【階段数を数えながら登りました】



【丸墓山古墳からの眺望】

「さきたま古墳公園」にて昼食（弁当）、公園内散策を行った。研修員たちの、「寒くてもいいから公園で昼食を食べたい。」という願いが通じたのか、午前中降っていた雨も上がり、少し青空も見えていた。散策では、丸墓山古墳に登った。研修員たちは、「とてもきれいに整備された公園に来られてとてもよかった。フィリピンにはこんなきれいに整備された公園はなかなかない。」と言っていた。

### ■ 研修評価会・閉講式 14:00~15:00

担当：増田一郎指導主事（企画調整担当）

#### 1 出席者

JICA 東京 木野本浩之東京国際センター所長、高橋依子 氏  
鈴木啓修学校教育アドバイザー  
通訳 河田裕子 氏、有田勇一郎 氏  
高校教育指導課 上原一孝教育指導幹、遠藤宏之指導主事  
総合教育センター 小島克也所長、水野義夫総合企画長、貝沼道浩副所長、  
小久保達夫教育主幹、鎌田勝之教育主幹兼主任指導主事、  
大竹秀明教育主幹兼主任指導主事、各担当GL、企画調整担当

#### 2 場所

131研修室

### 3 内容

#### (1) 研修評価会

(ア) 研修報告 (イ) 研修成果報告 (ウ) 質疑応答

#### (2) 閉講式

(ア) 開式 (イ) 国歌斉唱〔フィリピン、日本〕

(ウ) 挨拶

①JICA 東京 木野本 浩之 所長

②高校教育指導課 上原 一孝 教育指導幹

③埼玉県立総合教育センター 小島 克也 所長

(エ) 修了証授与 (JICA 東京)

(オ) 研修員代表挨拶 教育省セブ市教育委員会 教育長 ビアニト 氏

(カ) 閉式

### 4 研修評価会 (進行：JICA 東京 鈴木 学校教育アドバイザー)

#### (1) 研修報告 総合教育センター 小島 克也 所長

研修初日から、当日までの研修をスライドで振り返りながら、その時々のエピソードを交えての研修報告であった。進修館高校の空手部や合唱部が迎えたことから始まり、研修期間の様子が次々と写し出される。研修員たちはKCJのワークショップ等を経て、知識構成型ジクソー法についての理解を深められたと思われる。

また、センター一般公開の参加や桶川高校の食堂での食事など、日本の生活に親しんだ。研修生たちは、スライドの画面に見入って、それぞれの思い出を語り合うなど、学びの中にも、楽しい研修であったと思われる。



【報告をする小島所長】



【評価会のようす】



【報告を聞く研修員】

#### (2) 研修成果報告〔要旨〕

##### ①SUSVILLA, ESTELA, BARRETE 研修員



今回、これだけ素晴らしい経験をさせていただき、感激しております。日本に来たとたん歓迎されてうれしく思いました。今回の滞在をとおして、日本の文化にも触れることができましたし、KCJという手法にも理解を深めることができました。また、日本の全体像というものを知る事ができたと思います。帰国しましたら、同僚と皆で共有をして、今後の教育の活性化に役立てたいと思います。日本の皆様のあたたかい御親切、おもてなし、そして友情、こういったこともきっと生涯忘れないと思います。多くのことを学び、持ち帰ることができることに心から感謝をしています。日本は素晴らしく、多くの美しい景観、美しい人々、多くの学ぶべきことが豊かにある国であると思います。ありがとうございました。

##### ②PIELAGO, EVELYN RIAS 研修員



このようなたいへん貴重な機会を頂戴しまして、私どもの教育の価値を高めるためにも、よい機会でした。日本には本当に素晴らしい人が大勢いて、非常に心の深い人々に親切にいただきました。また、多くのことを学ぶ貴重な体験をさせていただきました。今回の滞りでKCJ法への理解を深め、子供たちが主体的にお互いに協調しながら学んでいくということを実感をもって、体験することができました。また、このことを通じて、生徒、教職員の皆様がお互いに支え合いながら、前に向かって素晴らしい経験を積み重ねているということがわかりましたし、ぜひそれを私どもの国でも展開をしていければという思いで、もうすぐ帰国をしようとしております。たいへんありがとうございました。

### ③SACLOLO, BONNIE JAMES ABUCEJO 研修員



私にとっての今回の滞在の大きなねらいは、その KCJ の手法の育成でして、それをもちかえろうということですが、必ずしも生徒を信用しきれないという部分が自分にも少なからずあり、そういう自分が今回の研修に参加させていただいたわけです。そして、実際に日本の教室を拝見させていただき、生徒さんたちが生き生きとお互いに議論して、主体的にコミュニケーションをとっている姿を目の当たりにしまして、これは非常に良い手法だという確信を持ちました。これを帰国したあと、私自身の教室でも実行していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

### ④ABAY, HAZEL MAE CREDO 研修員



学校訪問をさせていただいたときに、女性の数学の先生がおっしゃっていたことがとても印象的でした。子供たちが、みずから自発的に学びたいような環境を整えてやるということが非常に大切であるということをおっしゃっていたと思います。これはまさに、アクティブラーニングあるいは KCJ 法のひとつの大きな特徴であると思います。つまり、そのような環境を整えてやることで、自主的に考えて、答をみちびきだすような興味がわいてくるということがよくわかりました。私自身教師として反省すべき点が多くありました。いままで、生徒たちにすべての答えを与えていた時期があったということです。今回の研修を通じまして、埼玉県教育委員会の皆様、JICA の皆様等の様々な方からのアドバイスを通じて、私自身変わっていかねばならないということを確認し、今回の経験を踏まえて帰国後新たなチャレンジをしていきたいと思えます。たいへんありがとうございました。

### ⑤RAMIREZ, WINSTON NAVAJA 研修員



今回、学ばせていただきました KCJ というものは、私どもの現場にとりましても非常に大きな助けになることを確信しています。私たちの国の教育の質をさらに改善していくために、この KCJ 手法というものはなくてはならないものだと思いますし、今回の経験を通じて、この協調的な学習が日本で非常にうまく機能していて、また私どもの国にとっても大きな可能性があるということがわかりました。また、今回、この寒い気候にもかかわらず、温かいおもてなしをいただいたことは、ほんとうに感謝しております。私たちは笑いにみちた体験ができましたが、それも皆様から提供いただいている機会が、本当にためになるものであったからにはほかなりません。今回のさまざまな経験の一つ一つを心にとめて、国に持ちかえり、現場に活かしていきたいと思えます。

## 5 閉講式（進行：増田 指導主事）

### （1）挨拶（要旨）

#### ◆ JICA 東京国際センター 木野本 浩之 所長[要旨]

JICA 東京国際センターの所長の木野本浩之でございます。第 2 回埼玉研修を修了された皆様が、多くの成果をあげられたこととお喜び申し上げます。

JICA は、質の高い教育は、すべての人が等しく享受すべき基本的な権利であると同時に全ての「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に重要な役割を果たすものと認識し、学びの質の改善を重点課題として取り組んでいます。埼玉県教育委員会は、「知識構成型ジグソー法」(KCJ 法) の実践を本事業に御提案いただき、ここに埼玉研修という形で結実することは、JICA にとって、また何よりも参加いただいた研修員の方々にとって大変喜ばしい出来事になりました。

研修員の皆様は、日本の子供たちが主体的・対話的に学ぶ姿を御覧になり、また、KCJ 授業のデザイン等の様々なワークショップや、ディスカッションなど行い、協調学習への理解を深められたことと思います。

研修員の皆様には、日本で得た知識経験をセブの教育の場に沿った形で活かしていただきたく思えます。そして、この知識や経験を、同僚の皆さまに共有していただきたく思えます。また、人々との交流や文化にふれる機会を通じて、皆さんが日本を理解し、良い思い出として今回の滞在を心に刻んでいただければこんなにうれしいことはありません。

最後に、本研修の実施にあたり御尽力を頂きました、埼玉県教育局、埼玉県立総合教育センター、東京大学 CoREF の皆様に、厚く御礼申し上げます。研修員の皆さまが無事フィリピンに帰国され、フィリピンの子供たちのために活躍なさることをお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。



【挨拶をする木野本所長】

◆ 埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 上原 一孝 教育指導幹[要旨]

皆さん、こんにちは。埼玉県教育局高校教育指導課の上原です。研修員の皆さん、埼玉県での研修は、充実したものになりましたでしょうか。

先程の評価会の成果報告、そして今の皆さんの顔を見れば、この埼玉研修が大成功だったのではないかと思います。

JICA草の根技術協力事業は、埼玉県とフィリピンの交流によりお互いの教育の質を高めていくことを目的としています。今回の研修の中では、総合教育センターでの研修のほかに、小学校、中学校、高等学校を訪問していただきました。埼玉の学校の訪問が、皆様にとって参考となれば幸いです。

12月には、専門家派遣が予定されています。今回の研修で得た情報や技術等を周りの先生に伝えてもらえればと思います。

埼玉県教育委員会は、JICA東京の皆様にも、引き続き御協力いただきながら、この事業を推進してまいります。これからも、人と人との交流を積み重ねて、さらに互いのよい部分を学び合い学び続け、お互いの教育の質を高めていきたいと考えます。

また、事業の実施機関である総合教育センターの小島所長をはじめ、指導主事の皆様には、これまでの御尽力に改めて感謝を申し上げます。おわりに、皆さんの帰国の途の安全と、帰国後の御活躍を、また、今後の交流が、お互いにとって充実したものとなるようお願い、挨拶いたします。



【挨拶する上原教育指導幹】

◆ 埼玉県立総合教育センター 小島 克也 所長[要旨]

みなさん、こんにちは。日本、そして、埼玉での研修はいかがでしたでしょうか。皆様が来日されてから、あっという間に時間が過ぎました。明日はもう飛行機に乗って帰国される予定ですが、この間多くの研修に取り組んでいただきました。また、センター一般公開にも参加し、子供たちと触れ合うなど、充実した日々を過ごされたのではないかと思います。

この研修に当たり、私ども総合教育センターでは、全所員が協力し、皆様に実りある成果を持ち帰っていただけるよう取り組んでまいりました。皆様の研修に臨まれる、積極的かつ協力的な姿勢に助けられ、無事に研修を終えようとしていることに感謝申し上げます。

今回の研修で、私たちと皆さんは、「友情」を結び、「信頼関係」を築くことができました。これは、「子供たちのより良き成長・希望に満ちた子供たちの未来」を願う教育に懸ける熱い情熱を共有できたからだと思います。

このつながりを大切に、12月の専門家派遣では、より一層、お互いの絆を強め、ともに教育を担う者として、未来をつくる子供たちを育成するため、一緒に力を尽くしてまいりましょう。

本事業を展開するに当たり、多くの御支援をいただいている JICA 東京国際センター所長 木野本様をはじめとする JICA 東京の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

そして、研修員の皆様の御活躍と、フィリピン、日本両国の教育の益々の発展をお祈りいたしまして、閉講式の挨拶とします。ありがとうございました。（挨拶は英語で実施）



【挨拶をする小島所長】

(2) 修了証授与

10日間の研修の修了にあたり、JICA東京国際センター木野本所長から、研修員一人一人に草の根技術協力事業（フィリピン）第2回埼玉研修の修了証が授与された。また、総合教育センター小島所長から、プレゼントが手渡された。一人一人の名前を呼び、嬉しそうに修了証を手取る研修員の笑顔が印象的であり、充実した研修であったことを物語っていた。



【修了書を授与される研修員】

### (3) 研修員代表挨拶

#### ◆ 研修員代表挨拶 ピアニト氏[要旨]

JICAの皆様、教育委員会の皆様、教育センターの日本の皆様、今回のこのプログラムに参加できましたことをとてもうれしく思います。特に、KCJについて学べたことは、たいへん難しいことではありますが、木野本所長がおっしゃったように、できるだけ今回学んだことをフィリピンの同僚、マンダウェイ、セブ市の人々に伝えていきたいと考えています。

今回は小学校、高校などいろいろな学校を訪問させていただいて、日本の学校をよく知ることができました。

日曜日のフリータイムに、東京に行ったのですが、日本はとてもいいところだと聞いていたのですが、それが本当によくわかりました。それは、1日目にホテルに着いたときにも、日本人はまじめで規律正しく働いているということにすぐに気づきました。浅草に行ったとき、帰りに、3本乗継があるのですが、二人の日本人の方が、東京に住んでいる方だったのですが、わざわざ羽生まで同行してくださいました。私たちは、いろいろ失礼なことをしたのではないかとこのことを気にしてしまして、言葉が障壁になり、うまく伝わらなかったのではないかとこのこともあったと思いますので、もしそういうことがあればお詫びしたいと思います。また、私たちは、日本の方々に十分投資をしていただいているので、これをこれからお返ししていきたいと思いません。最後にJICAの皆様、教育委員会の皆様、教育センターの皆様に御礼申し上げます。昨晚、練習した日本語で御挨拶をいたします。(以下、日本語)



【挨拶するピアニト氏】

このたび、私は仕事を終わり、フィリピンに帰ります。皆さんの親切を私は忘れることができません。私は、言語が違ってわかりあえると感じています。みなさんはこのように美しい場所に住んでいます。私はこの場所と皆さんがほんとうに愛情深いと感じています。日本に住んだことが、私自身がフィリピン人であることを今まで知っていた以上に多くのことを教えてくれました。私はフィリピンに帰り日本での経験をそこでわかちあえると思っています。私はみなさんがフィリピンを訪れる機会があることを願っています。皆さんの勤勉さを私は見習いたいものです。言葉ではいいあわせないくらい、みなさんに会えなくなることがさみしくなるでしょう。私はすべての方にとっても感謝しています。ありがとうございました。

### (4) 閉会

閉会后に、フィリピン側からは記念品が埼玉県側に送られ、あらためて親交を深めた。最後は全員で記念写真を撮影し閉講式は終了した。



【木野本所長へプレゼント】



【小島所長へプレゼント】



【閉講式終了後の集合写真】

10月18日（水） 研修員離日・成田空港見送り

時 間	内 容	場 所 等
4:30	ルートイングランディア羽生 チェックアウト	
4:45	ホテル出発（バス）	ホテルロビー集合 見送り 企画調整（清水）
6:30	成田空港着	
7:30	見送り	高指課（遠藤） 企画調整（山崎）
	第2ターミナル 9:35 フィリピン航空 PR435 便 セブ行   【帰国ゲートに並ぶ研修員】	

帰国の飛行機が早い時間であったので、ホテルのチェックアウトが早朝となった。気候や習慣の異なる生活の中で10日間の研修はとても大変であったはずだが、15名の研修員は成田空港では疲れをみせず元気な笑顔で帰国した。



【帰国前の成田空港にて】

### Ⅲ 成果と課題（実施後の研修員のアンケートより抜粋）

#### （1）成果

- ・知識構成型ジグソー法（以下KCJ法）を用いた授業の流れを理解できた。
- ・KCJ法の授業案作成について理解できた。
- ・埼玉県教育行政組織について理解できた。
- ・学習科学に基づいた生徒等の学びについて理解できた。
- ・県立総合教育センターを中心とした埼玉県の研修体系や方法について理解できた。
- ・12月の専門家派遣に向けて、訪問日程案を協議することができた。
- ・12月の専門家派遣時の授業テーマについて協議し決定することができた。
- ・KCJ法の講義やワークショップを5月の埼玉研修を踏まえ、より実践的に改善できた。

#### （2）課題

- ・理科のKCJ法を用いた授業を見学することができなかった。
- ・小学校でのKCJ法を用いた授業を見学することができなかった。
- ・両国の文化や教育事情の違いについての意見交換の場が必要である。
- ・12月の専門家派遣時に、来年度の埼玉研修に向けての日数を含めた内容等の調整・確認が必要である。



